

琉球大学学術リポジトリ

日米関係（沖縄返還）6

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43782

41
23
枝村事務官フランス書記官会談

秘
無期限

200-
7211-1 3/29

北米局長
参事官
北米課長

沖縄問題に関する枝村・フランス会談

昭41.3.23
北米課(佐藤)

3月23日、枝村参事官は在京米大使館
フランス書記官の来訪を求め、沖縄船舶旗、

協談委員催等について要旨次の通り会談した。
(後藤同席)
アバア-オストラジ

1. 当方利、3月23日午後の衆院外務委員会に
おける竹本民社党議員の琉球船舶旗問題おまが

東、球陽丸補償問題に関する質問と政府答弁の
状況を説明した。これに対しフランスは、

(1) 昨年、
大使に会見の上、沖縄船舶旗問題について要請書
を呈交したとの情報については確認して貰う、

GA-6

外務省

(2) 琉球政府が

この情報については、この
遺憾、金額算定、基礎等について USCAR に

照会する、と述べた。 フランスは
この種の質問に対し日本政府側が

日本船舶も拿捕されていた例に見られるとおり、
野党側に対し事実 (flag situation) を明らかに

にしてほしいことは遺憾であると述べたので
当方利、自分も本日この復讐を聞いていたが、

竹本議員の質問がらみで "flag situation"
を明白にする適当な機会はないかと考えたと思

GA-6

外務省

われる。しかしこれはいつかサハレン参事官
が述べたように故意に事実を明らかにすることを

避けている次第ではない、と答えておいた。
フランスは、国会に今後さらにこの問題が

○

大きくとりあげられる可能性がある、と当方の意見を
求めたので、この問題について日本政府が何らか

の措置

（この問題）

の措置をとろうとしていることは、薄く矢張り
今のところは比較的 quiet であるが、もし一般の

○

期待に反し、本問題について近い将来争議が
ない場合は民社党なり社会党なりが中心

○

大きく取り上げることはありうろと思ふ、と答えて
おいた。

2. ついでに当方利、次回協談委員会に、
これ迄申島参事官から折られてお伝えしている

5)は、当方としては今春中に開きたい意向が
あったが、これを4月中旬に開催するよう正式に

要請するから、日本政府の提案として然る可く
処理願いたい、と述べた。この際当方利

○

協談委員の議題としてはさき2月1日に申し入れた
とおり、(1) 船舶自旗、(2) 日本旅客の発給、

○

(3) 移住民対策に因する日米協力、の3つを提案
している次第であるが、これらの事項に対する米側の

○

反応を早急で承知したく、この上で議題については
さらに協談することをしたいが、次回会議は

○

いずれにしても近い将来に開催したい旨述べて
おいた。

3. 最後の当方利、これは協談委員会に
取り上げるこの可非について問題もあると思われている

正式に課題として提案するのはないが、上記
総理解は、日本政府の対沖縄援助金の実施に

ついて、本土と沖縄の会計年度が異なるところから
4月から6月まで、援助金が使用できないのは

援助実施の促進との観点から望ましくないのと、
例えは、琉球政府が supplementary budget

として、毎年之内に支出可能にする、などの方法による
改善策を協議するのを考えている旨、お答え

日本政府部内の長期計画について、昨年5月以降
の作業計画の内容について承知したいとの意向

がある旨、伝えておいた。

決裁 北米課長 ^代 起案者 後藤 EXT. 444
昭和 41 年 3 月 25 日

無期限 文書課長 ^代 送付公信 控

米光 第 401 号 昭和 41 年 3 月 29 日

在 米 武内 ^{大(公)使 総領事 殿} 外務大臣

引用公・電信番号 同封、別便 (行の)、空郵
空貨、船郵、船貨)

送付資料、物及び備考

沖縄問題口説 枝村・フランス会談
(昭 41.3.23 付)

付属物添付

29 41